

木×美術 —絵画と工芸—

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)



桜 福田平八郎
昭和19年(1944) 本館蔵(住友コレクション)

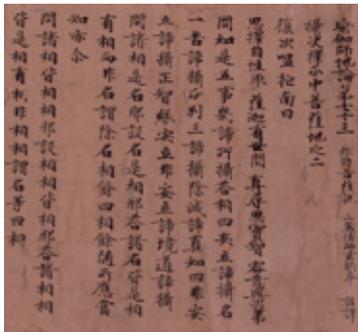
木は、モチーフとして、素材として、絵画や工芸に用いられてきました。そこからは、身近な樹木に対する親しみや崇高な存在に対する畏敬など、様々な思いを感じることができます。本展示では、住友コレクションの日本画を中心に木にまつわる作品をご紹介します。特別展「木×仏像」とともにお楽しみください。

木は、モチーフとして、素材として、絵画や工芸に用いられてきました。そこからは、身近な樹木に対する親しみや崇高な存在に対する畏敬など、様々な

奈良・平安の写経

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)

仏教が伝わって間もない奈良時代の写経は、中国や朝鮮半島の影響を受け、南北朝から唐のスタイルに似た謹厳方正な書風が特徴です。平安時代になると次第に和様化が進み、柔軟優美な字姿を示すようになってゆきます。近畿の寺院からのご寄託品を中心にご覧頂きます。



瑜伽師地論 卷第七十三(部分)
奈良時代・8世紀
奈良・薬師寺

絵巻物撰

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)



二尊院縁起絵巻(下巻・部分) 狩野派
桃山時代・16世紀
京都・二尊院

右から左へと画面(絵と詞)を巻き取りながら、物語の時間的、空間的な展開を鑑賞する「絵巻」は、現代の映画やアニメの源流ともいわれる特性をもつ絵画作品です。寺社縁起、高僧伝、説話、お伽草子など、バラエティに富んだ中～近世絵巻の魅力をご紹介します。

丸山石根 西国三十三所観音御画像Ⅰ

2017年4月8日(土)ー5月14日(日)

丸山石根 西国三十三所観音御画像Ⅱ

7月7日(金)ー7月19日(水)

8月1日(火)ー8月20日(日)

丸山石根(1919~99)は大阪に生まれ、京都市立絵画専門学校卒業後、中村岳陵に師事し、日展などで活躍した日本画家です。丸山が8年の歳月をかけて完成させた西国三十三所霊場の観音画像を2期にわけてご紹介します。慈愛にみちたまほとけの姿を心やすらかに鑑賞ください。



十一面千手千眼観世音菩薩 丸山石根
(第五番 紫雲山 葛井寺 本尊)
昭和61年(1986) 本館蔵

仏画×風景

2017年4月28日(金)ー6月4日(日)

涅槃に入る釈迦を囲む沙羅双樹、蓮が咲き誇る浄土の宝池、無数の剣が突き出た地獄の山など、仏教絵画の中には実に多種多様な〈風景〉の描写を見出せます。今回は仏教絵画に描かれた 景観や、その中の植物、生き物に焦点を当てて作品をご紹介します。現世や浄土、地獄世界の〈風景〉をお楽しみ下さい。



重要文化財
阿弥陀二十五菩薩来迎図(部分)
鎌倉時代・13~14世紀 兵庫・小童寺

円山・四条派の絵師たち

2017年4月28日(金)ー6月4日(日)

応挙を祖とする円山派とその弟子の呉春にはじまる四条派。いくぶんニュアンスに違いは見られるものの、どちらも自然写生を基礎とした平明な画風により一世を風靡しました。江戸中期以降、上方を中心に活躍した円山・四条派の絵師たちの作品を館蔵・寄託の作品よりご紹介します。



芭蕉童子図屏風(部分) 円山応挙
明和6年(1769) 個人蔵